

山のだし 香り立つ

しいたけの名産地、八女の山を望む地で
干しいたけの製造販売を行う
武久たけひさ（福岡県筑後市）。
静かな森の原木栽培からはじまる
干しいたけ作りを訪ねました。



ひんやりとした針葉樹の森の中、原木の樹皮を破って顔を出したしいたけ。原木を分解して自らの栄養にして育つしいたけは、密度高く身が詰まり、野生の趣。干してなおうまみが高まります。

木本に育つ うまみ



傘が開いて平たい香信。薄葉とも呼ばれます。水戻しが早く、だしが取りやすい。



こちらが冬菇。傘の開き具合6〜7割で収穫されるため、縁が内側に巻いて肉厚です。

家庭の味を 支える

12月のはじめ、年の瀬が近付いた武久の店先に、地元の方々が途切れることなく訪れています。お目当ては干しいたけです。

「お正月のお煮しめにね。お雑煮にも使うけん」「戻すのが面倒？ うちでは水に浸けて冷蔵庫に置いてありますよ。切干大根とか茶碗蒸しとか、毎日何かしらに使うわね」「しいたけの含め煮の残り汁で魚を煮てごらん。おいしいわよ〜」

どの人も口々に、台所に欠かせない、何にも代えられないと話し、味噌汁に使う方がほとんどでした。

干しいたけは、カツオ節、昆布とともに三大だしとされ、なかでも唯一の山のだし。うまみを含んだ具材としても楽しめる優秀な食材です。けれども年間消費量は1世帯当たり47g。わずかに10g程度と少なく、10年前から半減しています(※)。水で戻さなくてはならず、調理に手間がかかる印象があるからでしょうか。しかし、卓越した味わいは、それ以上の手間をかけて育まれていました。

2年もかかる 原木栽培

薄日が差す杉林にクスギの原木3000本あまりが、きれいに組まれて並んでいます。2本が寄り添うこの組み方を合掌立てというそうです。ここがしいたけの畑、「ほだ場」。「気持ちいいでしょう。空気がひんやりして、澄んでいますよね」

武久の四代目・武久景子さん(41歳)が八女市星野村の産地を案内してくれます。武久で取り扱っているのは、ここ福岡県や大分県、熊本県で作ら

れる原木栽培の干しいたけです。

原木しいたけは、主にクスギの木の原木に「種菌」を植え付けた「ほだ木」を、森の中の「ほだ場」で栽培します。原木栽培は畑という露地栽培。原木は土といたところでしょうか。

古来、森の樹木に自然発生していた環境を人の手で再現したようなほだ場は、屋根や壁や空調に守られているわけではありません。気象条件をそのまま受ける「風まかせ、天まかせ」の栽培で、収穫まで2年もかかると聞くと驚か

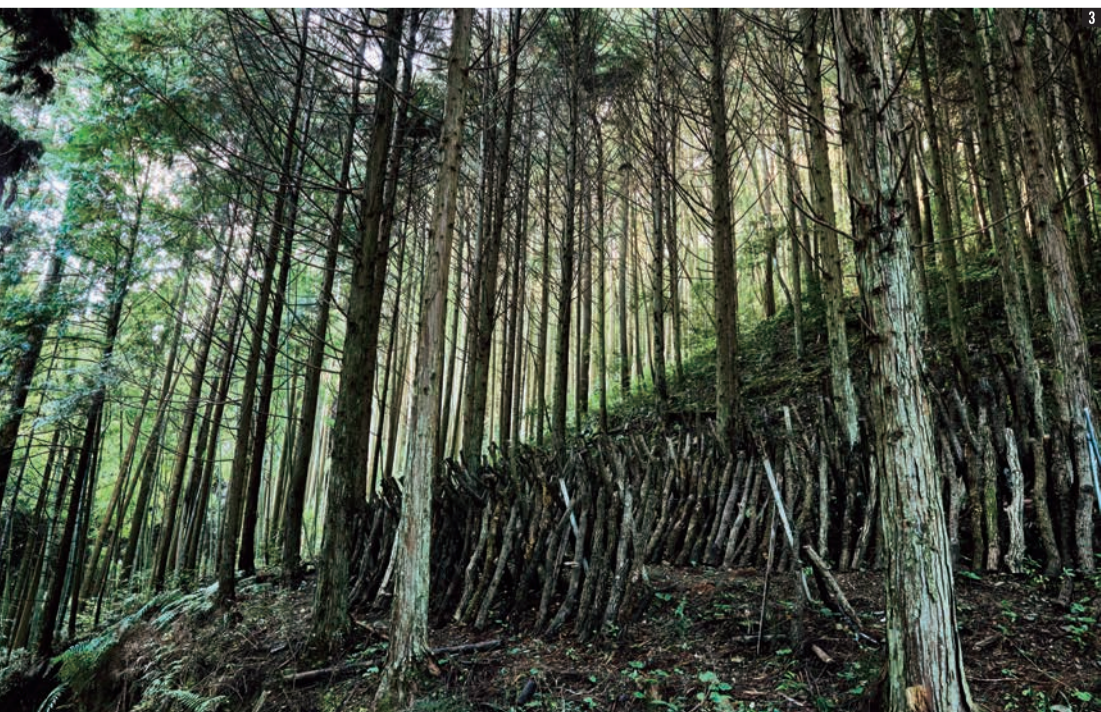
武久四代目・武久景子さんと、原木しいたけの生産者・山口ひとみさん(左)



1



2



3

- 寒さの中で育ち、傘の表面に亀裂が入った天白冬菇。茶色っぽいものは茶花冬菇。希少価値が高く選別の際に分けられます。
- 一つ一つ手に取り、大きさ、形、傘の巻き具合を見て選別します。
- 八女市星野村のほだ場。葉の落ちない杉林の中は木漏れ日が差す程度で山の下とは5℃くらい気温が違いました。この急斜面を行き来してしいたけを栽培します。

ソーシャルレポート

今号は「DAFDAF基金」のレポートと、給食支援や古着回収についてお知らせします。

編集後記

1本のほだ木には20カ所ほど種菌を植え付けますが、しいたげはどこから、いくつ顔を出すかも分かりません。ほだ木の中を菌がめぐるそうで、神秘的な力に驚きを覚えました。原木栽培は減少傾向にあり、菌床栽培が多くを占めますが、森の中で育った力強さは別格。日々食べ支えていきたいと思ひます。(編集部 青木)

昨年9月の台風ではミャンマーにも被害が及びました

「DAFDAF基金」ミャンマー北部、有機農業実践農場支援報告

昨年9月に発生した台風11号は、ミャンマー北部まで被害をもたらしました。DAFDAF基金の支援先であるシャン州の有機農業実践農場にも大きな被害をもたらし、鶏舎が破壊され、多くの鶏が飛ばされて行方不明に。主な収入源の鶏と養魚池の魚で経営をつないできたところの被害でした。今回、昨年12月に北タイを訪問する機会がありましたので、農場主のドナルドさんに陸路国境を越えてタイ側まで来ていただき、DAFDAF基金から支援金57,633タイバツ(253,000円分)を手渡ししました。鶏舎やその他農場の施設の修復に使っていただく予定です。ドナルドさんによると、クーデター以来、夜間外出禁止令、徴兵の強化、検問の増設などがあり、生活が厳しくなっているとのことでした。DAFDAF基金は、海外の顔の見える農業支援を目的とした基金です。ミャンマーを自由に行き来できる日まで辛抱強く支援を続けていきたいと思ひます。



1 2024年9月にミャンマーを襲った台風11号により被害を受けた鶏舎。多くの鶏が飛ばされてしまい、行方不明になりました。
2 支援金で購入したブロック。施設の修復に使用されます。
3 新しい鶏舎を建設中の様子。

学び続けられることで将来が変わる

給食支援をありがとう! TABLE FOR TWO



TABLE FOR TWO(TFT)が目指すのは「食の不均衡」の解消。先進国の私たちはヘルシーメニューを選ぶことでとりすぎの栄養素を減らせ、開発途上国の子どもたちには給食という形で栄養が届く支援です。対象となる商品をご購入いただくと、売り上げの3%または20円※がTFTに寄付され、開発途上国の子どもの学校給食になります。大地を守る会では有機栽培バナナなどの商品を対象商品として、寄付金付きで販売しています。未来のためにこれからも一緒に支援していきましょう。

※20円で開発途上国の給食1食分

ルワンダでも貧困率の高いバンダ村の小学校の子どもたち。みんな給食の時間を楽しみにしています。

TFT寄付金付き商品はこちらから▶



古着を送って、 パキスタンのスラムの子どもたちに 学ぶ機会を!



NPO法人JFSAは、パキスタンのスラムにある学校「アル・カイルアカデミー」の運営を支えるため、衣類・毛布・バッグなどのリユース事業をパキスタンの人々と協力して行っています。現在同校は約5,000人が学んでいます。家庭で昼食が食べられない生徒のために給食を支給してきましたが、一括で調理できる給食センターの建設が完了し稼働し始め、現在2,000人分の給食が提供可能となりました。また2023年の洪水被災者支援も継続しています。皆

新設の給食センターでは10,000人分の給食が作れるので、条件が整い次第供給数を増やす予定です。

さんから寄せられた古着は、カラチやバンコクで販売され、その利益がこのような学校の運営費用に充てられています。古着回収にぜひご協力ください。受付期間：2月1日(土)～4月30日(水)

参加方法、詳細はこちらから▶



『NEWS大地を守る』はWEBでもご覧いただけます。イベントの詳細・お申込みもWEBからどうぞ。
<https://www.daichi-m.co.jp/>

お問合せ

大地を守る会サポートセンター TEL●0120-158-183
受付時間●月～金・午前9:00～午後5:00/土・午前9:00～午後1:00
お問い合わせフォーム●<https://takuhai.daichi-m.co.jp/support>
E-mail●support@takuhai.daichi-m.co.jp



イベントは左記WEBサイト内の「イベント情報」へ。

●『NEWS大地を守る』に掲載している取り組みは、主に大地を守る会の宅配サービスの年会費・利用料で運営されています。

注意事項

当社は、大地を守る会のイベント及び大地を守る会が告知する他団体のイベントにお申込みいただく際、ご記入いただく個人情報を、お申込み内容に関する確認、参加者への連絡、抽選、抽選結果連絡、お問合せに対する回答、非常時に関する対応、イベントの質向上管理のために利用させていただきます。なお当社は、イベント等を旅行者に業務委託する場合があります。この場合、個

人情報を開示することがあります。業務委託にあたっては、個人情報保護に関する契約を締結し、業務委託先が契約を遵守するよう必要かつ適切な管理及び監督を行います。上記に同意の上お申込みください。個人情報の取扱いに関するその他の条件については、当社ウェブサイトの個人情報保護方針をご確認ください。
<https://takuhai.daichi-m.co.jp/Information/8>

大地を守る会
DAICHI-NO MAMORI KAI

発行 オイシックス・ラ・大地株式会社
東京都品川区大崎1-11-2 ゲートシティ大崎イーストタワー5階
TEL 050-5306-8513